進路室の窓から No.6 2023/7/17

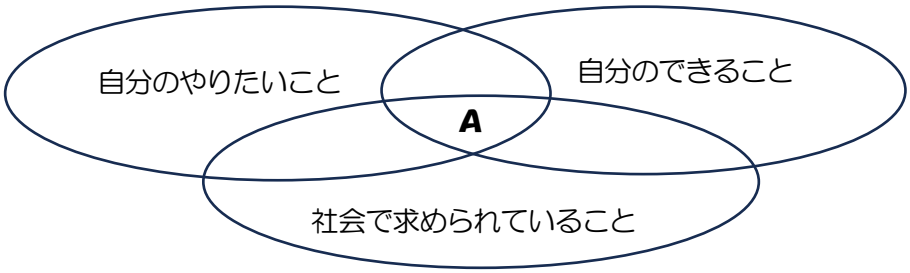
文理選択・科目選択・大学選択

夏休みには、1年生は文理選択、2年生は科目選択（ほとんど決まっていますが）、3年生はいよいよ受験校選択が本格化していきます。自分のこれからについての選択をしなければならない時期ですが、今回は、どれにも（もっというと、大学卒業後の就職や働き方）役に立ちそうな考え方を紹介します。

それは、自分の進路を考える際、以下の3つの要素について考えよう、ということです。

・自分のやりたいこと ／ ・自分のできること ／ ・社会で求められていること

これを、以下のような図で、イメージしてみます。



この、A で示されているところが、その人にふさわしいであろう仕事（さらに言えば生き方）になる、という考え方です。

わかりやすいのは、やりたいことと、できることが重なるところがふさわしい仕事だということですね。裏を返せば、ある職種につきたいとしても、その適性・能力がなければ、ふさわしい職種だとは言えません。文理選択などでは、**自分のやりたいこと、なりたいもの**を軸に考えがちですが、一方で**自分のできることも**考えなければなりません。もう一つの「**社会で求められていること**」という要素は、ものすご～く割り切って言うと、そこで**賃金がもらえたり、感謝されたりする**、ということです。例えばゲームが好き（やりたい）で、ゲームが得意（できる）だとして、そこで収入が得られるなら、その人にとってふさわしい職業です。一方で、単にお金と時間を使っているのであれば、それは趣味（もちろん、趣味は大事です）になるよね、ということです。

さて、ここまでが基本的な考え方です。もう少し考えを深めていきましょう。

この図でイメージしてほしいのは、それぞれの輪が大きくなればなるほど、A の範囲が広がるということです。

学校で勉強するように声をかける最大の理由は、この図で言う「**自分のできること**」の輪をどんどん大きくしてもらうためなのです。「できること」の輪が広がって、「やりたいこと」を内包してしまえば、やりたいことは全部できる、ということになりますね。

一方で、「**やりたいこと**」を広げることもできます。「やりたいこと」は自分の思いだから、そんなに広がるかな、と思う人は多いと思います。また、「やりたいことがない」「やりたいことが見つからない」という人も多いでしょう。

そこで、重要な法則を紹介します。

「人は、知っていることしかやりたいと思わない」「知らないことをやりたいと思う人はいない」

つまり、**「あなたのやりたいこと」とは、「あなたの知っていることの範囲の中でしかない」**ということです。ですので、やりたいことを広げよう、ということは、もっともっと知っていることを増やそう、ということでもあります。実際のところ、大学に行く価値の一つは、**よりいろいろな人や場所に出会って、見聞を広める**というところにあります。その点において、某マンガで言われていたような、**やりたいことが見つからない人こそ、東大に行くべきだ**、という話には一理あります。

では、「社会で求められていること」を広げるのはどうでしょう。これは、あくまでも**他者（社会・地域・時代）**が求めるものなので、自分から広げていくのは難しいでしょう。また、景気の動向によっても伸びる業種、停滞する業種は様々です。具体的には挙げませんが、ニーズはあるのに賃金が安いお仕事や、賃金は高いのに、働き方がブラックとか、世の中なかなかうまくいきません。ただ、高校生の段階で、そこまで考えなくてもよいとも思います。大学に4年間、6年間いる間に社会も大きく変わります。

大事なことは、特に**学生のうちに、世の中の動きをキャッチするためのアンテナを張り巡らすこと**です。「やりたいこと」と同様、「社会で求められていること」に対する知識が増えれば増えるほど、A の範囲は広がっていくでしょう。

とまぁ、今回の内容が、どこまで役に立つかわかりませんが、自分の進路について考えるうえで、このように**「自分のやりたいこと」「自分のできること」「社会に求められていること」**という要素で整理してみると、自分の選択が明確になるでしょう。